

断片

思想もなく、愛慾もなく、煙りのやうなもので自分を失つてゐる。
○いつもおなじ生活、からりからりからまわりする思ひに疲れて
○霜が月夜をうづめてしまつた、くわろくわろと、誰よ、もつと鳴いてくれ
白木 英尾

詩南社時代の女流歌人の群

片 寄 歌 二

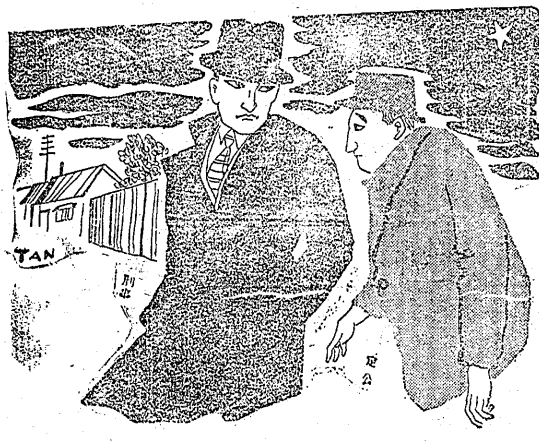
詩南社が解体してから、詩南社に原稿を寄す様も四年になる。早いものになつた。良し歌稿を何時だ。詩南社に活躍した女性もよく出た。呉れたので一人々々拾つて見る。忘非常に有難かつた。
れられた人達を書いて見る。その頃から現在に満更無意味では無からう。及んでるから、秋原たけ詩南社初期の人佐藤清丹野八千代(後の黒江寛水)さんがあつた。或る新聞社町冷子(後の山岸彩子)の諸の文藝部の編輯をしてゐた氏がある。詩南社には古くと云つて、大變息巻く入から關係の深い人達で、若つて来た。その頃の詩南社女性の歌壇進出に力を盡すの歌壇は微々たるもので、くして呉れた人達である。女性の歌人は殆んど皆無で、秋原たけさんは、或時はあつたので相當優遇された君影草、勿忘草の名で原稿もあつた。今は南米サンを出した時であつたが、主はパロに夫君と共に農園をに本名で現在に到つてゐる。管んでゐるが、時折消息の女性に有り勝ちな中途で挫折して見たいものである。折する事なくして、益々歌壇の頃に、佐藤とらよに精進されてゐる事は好ま(淡雪)さんが、平第二小原しい事だ。
校長夫人の肩書で入つて来た。丹野八千代さんは、始めた、作品は兎に角、その頃から一人として詩南社、女流歌人を拾つて見る。は肩書が相當ものを云つた社に入つた人で、身体の小らしく之また優遇された。林崎の様な赤い頬を古澤多美枝、野村幸子、渡のた。この人は中々歌稿を持つた人で、文學的造詣美の諸氏、定形律では善いて呉れぬので、死んだにも中央で相當活躍した田部君子、木野もと子等の宮田清波兄と二人でよくお入で、詩も、俳句も、創作諸氏があつた。
「へつたものだ。か、それ、立派な形態の、の書いてゐた。原稿を本名で出してゐたが、二十歌の他に俳句、や、てゐる。原稿を本名で出してゐたが、二十の淡雪はその時の排名下、原稿を本名で出してゐたが、二十あつたらしい。
それから、聲文論の武だけ非常に感心させられ、田美佐子(あけみ)さんがあつた。歌は定形律であつた。努力した様であつた。大いその頃あつた只野先生の紹介が、後に自由律に轉向し

行發日六十月五
定形律では田部君子さんの晩のうちに有難いお話を、一度だか原稿を寄した事、て終つてゐたところを、刑事がある。小山田滋氏に師事し、踏みこまれて、すぐに警して歌に精進せられてゐる。今日に限つて何故休んだ事、短歌會に二度原稿を出してゐたが、この人は、木つたやうな顔をしてゐたが、野もと子さん等と等、時代「包まずに、ありのまゝをその頃の詩南社の歌壇には無くてならない人であつた。一時中止して山岸彩子の名を再び出てからは良い歌を見て、異常な進歩を齎した人だつた。夜汽車を歌つた歌に良いのがあつたが、残念ながら思ひ出せない。それから茨城の磯原在から、よく原稿を寄した人に石川梅子さんがあつた。森田の歌に師事して、素直な歌を見て呉れた人である。その他、熊谷金見子さんが、二三回原稿を出して呉

が、餘り話題を作り過ぎて、職場、休んだのも、怪前は驛の前で子と逢つた。ことになつちまひます。その、相手の青年といふのは?
「ホールへ毎日のやうに踊りに来る青山といふ野郎で青山」と警部補は手帳に書きしるした。
「で、お前は、すると、約に書きしるした。
「驛の前で待ちましたか、たうとうすつばかされたか、ひました。私は朝まで待ちました。
「それはしましたか?
「何のために約束したか?
「それは、是非と至急にばうけをしたんです。
「本當です。驛の前に明方まで支那そば屋が屋台を張つてゐました。すつとそいつの話し相手をして夜通し待つてゐたんです。
あとでわかつたのだが、定吉のアルバイトは立派にたつてゐた。その支那そば屋が十二時から朝の五時まで驛の前で、定吉と一緒だつたことを證言した。
廣告

木曜日より
○報知の金子正雄氏は在平三年餘の足跡を及ぼし土浦へ轉任になつたが氏には所謂報知イズムとかけ離れた社交的の明るさがあつて、在平記者中では珍しく土地の文壇人との交遊があつた。○昔て美澤光夫のペンネームでプロ詩を書いてゐる野根忠敬君、この程良縁を得て十三日日出度く婚儀の式を挙げたが、詩壇からは片寄歌二氏が招待された。
5月17日
△開宮林蔵宗谷海峽探検(文化六)△開所の私設を禁ず(明治元)△府縣制公布(同二)△三・五・一五事件真相發表(昭和八)

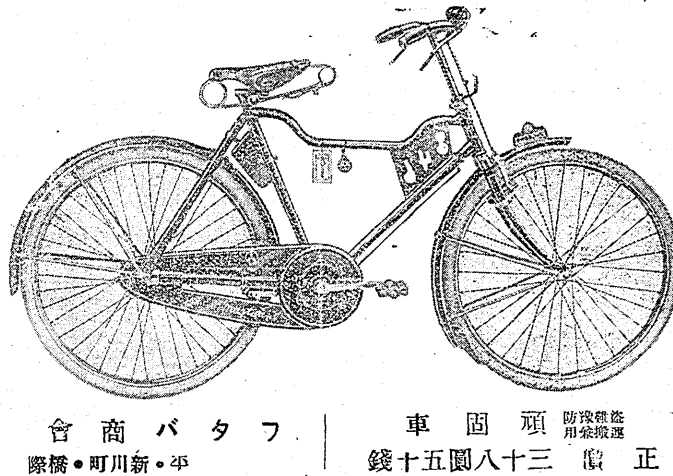
誰が殺したか
(19) 國枝史郎作
龍造寺 龍齋
(20) 龍造寺 龍齋
(21) 龍造寺 龍齋
(22) 龍造寺 龍齋
(23) 龍造寺 龍齋
(24) 龍造寺 龍齋
(25) 龍造寺 龍齋
(26) 龍造寺 龍齋
(27) 龍造寺 龍齋
(28) 龍造寺 龍齋
(29) 龍造寺 龍齋
(30) 龍造寺 龍齋
(31) 龍造寺 龍齋
(32) 龍造寺 龍齋
(33) 龍造寺 龍齋
(34) 龍造寺 龍齋
(35) 龍造寺 龍齋
(36) 龍造寺 龍齋
(37) 龍造寺 龍齋
(38) 龍造寺 龍齋
(39) 龍造寺 龍齋
(40) 龍造寺 龍齋
(41) 龍造寺 龍齋
(42) 龍造寺 龍齋
(43) 龍造寺 龍齋
(44) 龍造寺 龍齋
(45) 龍造寺 龍齋
(46) 龍造寺 龍齋
(47) 龍造寺 龍齋
(48) 龍造寺 龍齋
(49) 龍造寺 龍齋
(50) 龍造寺 龍齋
(51) 龍造寺 龍齋
(52) 龍造寺 龍齋
(53) 龍造寺 龍齋
(54) 龍造寺 龍齋
(55) 龍造寺 龍齋
(56) 龍造寺 龍齋
(57) 龍造寺 龍齋
(58) 龍造寺 龍齋
(59) 龍造寺 龍齋
(60) 龍造寺 龍齋
(61) 龍造寺 龍齋
(62) 龍造寺 龍齋
(63) 龍造寺 龍齋
(64) 龍造寺 龍齋
(65) 龍造寺 龍齋
(66) 龍造寺 龍齋
(67) 龍造寺 龍齋
(68) 龍造寺 龍齋
(69) 龍造寺 龍齋
(70) 龍造寺 龍齋
(71) 龍造寺 龍齋
(72) 龍造寺 龍齋
(73) 龍造寺 龍齋
(74) 龍造寺 龍齋
(75) 龍造寺 龍齋
(76) 龍造寺 龍齋
(77) 龍造寺 龍齋
(78) 龍造寺 龍齋
(79) 龍造寺 龍齋
(80) 龍造寺 龍齋
(81) 龍造寺 龍齋
(82) 龍造寺 龍齋
(83) 龍造寺 龍齋
(84) 龍造寺 龍齋
(85) 龍造寺 龍齋
(86) 龍造寺 龍齋
(87) 龍造寺 龍齋
(88) 龍造寺 龍齋
(89) 龍造寺 龍齋
(90) 龍造寺 龍齋
(91) 龍造寺 龍齋
(92) 龍造寺 龍齋
(93) 龍造寺 龍齋
(94) 龍造寺 龍齋
(95) 龍造寺 龍齋
(96) 龍造寺 龍齋
(97) 龍造寺 龍齋
(98) 龍造寺 龍齋
(99) 龍造寺 龍齋
(100) 龍造寺 龍齋



父宗平儀 病氣の處薬石効無
く十五日午後七時永眠致し候に付
此段生前辱知の諸彦に謹告候也
追て葬儀は十七日午後二時自宅出棺九品
寺に於て佛式執行可致候
五月十五日
親戚 小齋 宗一 郎
小齋 兼 吉
病室 完備
(電話 一一二九)

先づ御待ち下さい。
本邦唯一の定評ある後藤ボテ社
製作の豪華なる流線型高級遊覽
バスが来る十六日に入車致しま
す。楽しい御遊行、御視察
御見學各種団体には是非
此の遊覽バスを御利用下さる様
御願致します。
御申込は本日より承はり度ふ存じま
す。
尼子自動車商會
遊覽部
電 六四〇番

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八八番
醫學士 吉田 久 雄
良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋
和洋銅物
磐城國平町五丁目
電話九番 九九番
接骨貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は、スの生命なり



精神科 腦脊髓科 神經病科
郡山市外大槻村針生
郡山驛より約三十丁
安積中野より約五丁
郡山脳病院
電話九二五番
醫學士 金森 五郎
入院隨時

